

# 第61回 全国保育問題研究集会

## 京都 オンライン

心をひとつに たゆまぬ歩みを  
きょうから拓く 安心と希望  
～わたしたちの未来は わたしたちの手で～

つながろう 多様性を認めあい平和の文化を広げるために  
声を聴きあおう 一人ひとりがたいせつにされる社会を創るために  
学びあおう すべての子どもの発達を保障する保育を明らかにするために  
充実させよう 公的保育制度を 子どももおとなも安心して生きていくために

2022年6月4日(土) 11日(土) 12日(日)

[ 録画配信開始 ] [ 分科会 ・ 閉会集会 ]

|           | 6月4日(土)                                   | 6月11日(土) | 6月12日(日)                          |
|-----------|---|----------|-----------------------------------|
| 開会集会・記念講演 | 【録画配信】6月4日(土)～7月3日(日)                     |          |                                   |
| 特別講座      | 【録画配信】6月11日(土)～7月10日(日)                   |          |                                   |
| 分科会       | 【17分科会(Zoom)】<br>10:00～12:30, 13:30～16:00 |          | 【17分科会(Zoom)】<br>10:00～12:30      |
| 閉会集会      |   |          | 【中継配信】13:30～14:30 【録画配信】～7月10日(日) |

主催：全国保育問題研究協議会・第61回全国保育問題研究集会 京都集会実行委員会

## 第61回全国保育問題研究集会 歓迎のことば

全国各地域で、子どもたちのために日々力を尽くして下さっているみなさま、この「案内」を手にしていただいた出会いをありがたく思います。保育問題研究会は1936年に結成され、保育者も研究者も対等な立場で実践について語り合い、討議を重ねて学んできた全国集会は昨年60回を迎えました。「学びを止めない」という強い意志と覚悟をもって初の全面オンライン集会を実現して下さった第60回東京集会では、「すぐ前向きな気持ちになれたし、保育するのが楽しみな気持ちになった!」「希望がもてつながるって大事なあつて思えた」といった声が京都でも多く寄せられました。2年前、新型コロナウイルスの拡大状況からやむなく「不参集」とした京都集会ですが、「つながりから安心がうまれるような時間を…」と心をひとつに、今回はオンラインを活用して開催準備を進めています。

この間、コロナ禍により多くの園で、行事のあり方、会議や研修等の持ち方について、これまでの「あたりまえ」を見直すことが求められてきました。また、多様な保育形態や幼稚園での2歳児受け入れ推進により、従来の枠組みをこえてお互いに学び合うことが求められています。保育条件の厳しさに拍車がかかり、さまざまな矛盾を抱えて悩むことも多いと思いますが、全国にはたくさんの仲間がいます。「子どもを真ん中に」、本当に「私(たち)が大事にしたいこと」を話しあうことを通して、この危機を発展のチャンスにしていきたいと強くねがっています。

全国から75本もの実践提案を送り出していただきました。一人ひとりの声を大切に聴きあい、安心と希望をもてる保育、社会をみんなで実現していく「つながりの輪・(平)和」(表紙の「綱」デザイン)を「きょう」この集会からさらにひろげていきましょう! 超魅力的な講演・講座も用意してみなさまのご参加を心よりお待ちしております♪

2022年京都集会実行委員長 服部敬子(京都府立大学)

6月4日(土)

録画配信開始

### 開会集会

オープニング  
歓迎あいさつ…実行委員長 服部 敬子  
主催者あいさつ…全国保育問題研究協議会 入江 慶太  
基調提案…全国保育問題研究協議会 基調提案作成委員会

### 「食と農の歴史から考える子どもの未来」

保育園・幼稚園と積み木を生み出したフリードリヒ・フレーベルにとって、食と農はとても重要であった。また、フレーベルの影響を受けたデュイも、料理を教育の中心に捉えるような学校を提案していた。この講演では、給食や料理など、食や農にまつわるさまざまな子どもの教育の実践や哲学を振り返りつつ、来たるべき保育思想について考えていきたい。

### 記念講演

藤原 辰史 さん

京都大学人文科学研究所准教授。  
北海道旭川市生まれ。島根県横田町(現:奥出雲町)出身。  
主な著作に、『分解の哲学』(サントリー学芸賞)、『ナチスのキッチン』(第1回河合隼雄学芸賞)、『給食の歴史』(第10回辻静雄食文化賞)、『緑食論』、『脳の原理の史的的研究』がある。



6月12日(日)

中継配信  
6月20日～録画配信予定

閉会集会 13:30～14:30

現地実行委員より  
閉会のあいさつ…京都集会実行委員会  
集会宣言  
次回開催地 仙台より

# 分科会

～ Zoom ～

**6月11日（土）10:00～16:00**

**6月12日（日）10:00～12:30**

## 1 乳児保育

この分科会では、乳児を主体的な存在であるにとらえ、その主体性をどのように育むかという議論を深めてきました。また「子どもの最善の利益」の観点から乳児保育のよりよいあり方を考えあってきました。このコロナ禍において、これまで議論し、深めてきたよりよい乳児保育の意義が一層明確になっています。同時に浮き彫りとなってきたのは、そのような保育のためには欠かせない、保育士配置基準・保育所の設備基準などの最低基準の引き上げや保育者の処遇改善などの条件整備がまだまだ不十分であることです。感染防止と豊かな保育内容や方法を両立させるために、現場では知恵を絞り工夫を重ねた保育実践が行われています。具体的な実践に学びながら、よりよき乳児保育のために必要な保育条件などについても幅広く議論していきます。

**運営委員** 浅川淳司(石川)・遠田えり(北埼玉)・亀谷和史(愛知)・小林美花(北海道)・佐々木洋子(東京)・津嘉山由美子(沖縄)・友廣万貴子(岡山)・中川伸子(広島)・西林正美(兵庫)・沼田史(福岡)・野村朋(大阪)・布施佐代子(愛知)・松田千都(京都)

## 2 集団づくり

いま、人権と民主主義が問われています。子どもたちを民主的な主権者として人間らしく育てていくために、子どもたちの要求を掘り起こし、豊かな集団生活を保障していきたいと思います。自治的、民主的集団をめざし、子どもたちの現実や集団の現状をふまえて、実践の道筋と手だてをどう考えたらよいのか、地域や家庭をも視野に含めた実践をどうつくりだすのか、また保育者集団のあり方など、実践をもとに深めていきましょう。

**運営委員** 大元千種(佐賀)・川上隆子(熊本)・光本弥生(広島)・鈴木牧夫(東京)・中島常安(北海道)・中洲良子(大阪)・長瀬美子(大阪)・西野純(仙台)・服部敬子(京都)・林若子(南埼玉)・山本理絵(愛知)・吉田真理子(三重)・脇信明(長崎)

## 3 あそび

いま子どもたちはどんなあそびをしていますか。そのあそびの中で、子どもは、生まれてきてよかったと感じるようなたのしさを味わい、自分の人生は自分のものだという手ごたえを感じているでしょうか。なぜ保育ではあそびが大事だと言われるのか、3密にならないことを意識せざるを得ない各地の保育状況を共有しながら、あらためて考えてみたいと思います。分科会では各提案に即しこれまでの討議の柱を踏まえ、1. 子どもやその家族を理解し、2. 子どもがあそぶ環境、夢中になるあそび、あそび集団、あそびの過程、飼育や栽培などの出会いについて語り、3. あそびへの保育者の関わりや、4. 保護者や地域との連携について考える時間をもちたいと思います。子どものあそびの原動力としての年長者やおとなへの憧れや、またあそぶ子どもにも励まされるおとなの状況など、あそびを生成する相互関係についても今こそ考える時間をもちたいと思っています。

**運営委員** 岡村由紀子(静岡)・木都老克彦(神奈川)・塩崎美穂(東京)・竹内圭(京都)・田中浩司(東京)・富田靖子(愛知)・仲村健一(沖縄)・古林ゆり(福岡)・松元泰樹(鹿児島)・三浦和恵(仙台)・宮城千鶴(大阪)

## 4-a 身体づくり 運動

この分科会は、保育実践における「運動」のあり方について考えるところです。「運動」はからだを育てることはもちろん、保育者、仲間との関係、こころを育んでいきますが、単に「運動」すればよいというものではありません。今なぜ、その「運動」なのか、その教材を通して何を教えるのか、子どもの運動要求をどのように掘り起し、組織化するのか等、乳幼児期の発達に即して、「運動」の目的、内容、方法等を丁寧に考える必要があります。今日、便利な生活が進行するなかで「運動」する機会そのものが奪われつつあり、乳児期からより意識的な身体づくりの実践が求められています。各園がおかれている保育環境、保育条件のなかでの工夫はもちろん、子どもの最善の利益を

|   |
|---|
| <p>分科会の実践提案は、4月25日から販売の『季刊保育問題研究』314号（新読書社）に掲載されています。必ずご持参ください。購入される方は、各地の保問研または新読書社までお問い合わせください。（新読書社　FAX：03-3814-3097　mail：info@shindokusho.jp）</p> |
|---|

保障するという視点に立って、豊かな身体づくりを実践するために必要な保育環境の基準についても考えていきたいと思います。

**運営委員** 上月智晴(京都)・佐々木雄大(東京)・塩田桃子(大阪)・千葉直紀(信州)・永井三千代(北埼玉)・福井英二(福岡)・横井喜彦(愛知)

## 4-b 身体づくり 食

「食」は命を守り、維持し、成長を保障する基本です。子どもたちや保護者がおかれている現状を知り、「食べることを楽しむ」工夫を通して子どもたちの生活が豊かになるための実践を語り合ひましょう。これまでの集会では、給食センター化、委託化、食の安全、食を通した心の育ち、食経験の格差、食育活動や食文化等について語り、学び合ってきました。このような問題を本集会でも引き続き深く学び、更にコロナ禍における様々な制限下の中で、工夫しながら実践した中から発見、再確認したことを語り合い、共有し、学び合ひましょう。

**運営委員** 安部貴洋(仙台)・加藤雅美(愛知)・小西律子(兵庫)・芹澤早由里(滋賀)・三上かおる(大阪)・宮田隆子(京都)

## 5-a 認識と表現 文学

これまで提案され、話し合ってきた実践は、絵本の読み聞かせ・お話づくり・劇あそび・劇づくり・紙芝居などの活動、教材としての絵本の分析、父母・地域とかかわる圖文庫の取り組みなど多岐にわたっています。多様な実践に迫る共通の視点は、文学と出会うことによって認識を深め、表現し、その中で子どもたちの生活がよりよいものになり、集団の質が高まることです。文学の実践の可能性を追求していきましょう。

**運営委員** 小川絢子(愛知)・佐藤智恵美(北海道)・田代康子(東京)・徳永満理(兵庫)・西川由紀子(京都)・山崎由紀子(大阪)

## 5-b 認識と表現 美術

子どもの絵のとらえ方や見方、指導のあり方について古くから保問研の中にも多様な考え方や実践があります。毎年の方科会では、こうした積み重ねを丁寧に認識し合うと同時に、様々な実践の違う点、結論を急がずじっくり実践の事実を丁寧に出し合う中で相互理解を深めていけたらと思います。そこから見えてくるものを大切にした討議をしていきたいと思います。

**運営委員** 伊藤正雄(東京)・高倉華代(福岡)・田中義和(愛知)・平沼博将(京都)・本田美絵(大阪)・山田真世(広島)

## 5-c 認識と表現 音楽

音楽分科会は、子どもたちの生活を語り、子どもたちの歌声等を聴きあい、「音楽が保育園の暮らしの様々なこととつながり子どもたちを育てている事実」を深め合ってきています。保育の中の音楽は多様にあります。これまでの分科会の中では、『わらべ歌』『創作曲』『あそびうた』『キーボード』『太鼓』『歌曲』『劇ごっこ』『リズム表現』などが提案されてきました。子どもたちを夢中にさせるその教材の魅力を大事にし、選んだ音楽の何が（どこが）子どもたちを育てたのかを探り続けています。分科会では、子どもの描いた絵、制作物、絵本などの展示、あそびや歌の様子のDVDなどで、提案の内容を深めています。

**運営委員** 荒木美穂(北埼玉)・安藤正彦(京都)・坂手佳子(大阪)・高橋弘子(群馬)・藤波陽子(栃木)・山並さやか(熊本)

## 5-d 認識と表現 科学

「科学」とは、「人間が好奇心や探究心を持って行う、ものごとやことからの真理の探究」のことを指します。科学と聞くと、難しそうだなと思われるかもしれませんが、そんなことはありません。身近なところに科学のタネはいくらでも転がっていますし、その不思議さや面白さについて自分なりに考え始めたとき、それはすでに科学の領域に足を踏み入

れていることになるのです。科学分科会では、子どもなりの気づきや発見、そして、仮説を立て検証するプロセスを大切にしています。また、そのことを人と人、人とモノとの多様ななかわりの中で豊かに表現し、認識を深めていくことを大切にしています。そんな議論をしたい方はぜひ参加してください。

**運営委員** 清原みさ子(愛知)・滝口圭子(石川)・富田昌平(三重)・深井いし子(京都)

# 6 保育計画

保育計画の作成は、保育全般に関わり、なおかつ基底となる作業といえるでしょう。保育実践の根底にある子ども像と目の前の子どもの姿を照らし合わせながら、家庭・地域の状況を踏まえて検討し、職員間・保護者も含めて合意形成する必要があります。保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が告示化されたことにより、保育計画においても国主導の「望ましい形」が求められるようになっていきます。私たちの保育計画づくりは、自主編成を軸に、保育者の専門性を向上させるとともに、子どもの生活やあそび、発達を豊かにするものであると考えています。本分科会で「保育計画とは何か」を、提案原稿に学びながら深めていきましょう。

**運営委員** 荒堀育子(京都)・入江慶太(岡山)・合田史宜(愛媛)・永谷孝代(大阪)・渡邊保博(京都)

## 7 保育時間と保育内容

保護者の労働形態の変化とともに、保育時間も多様になっていますが、子どもたちの食事・睡眠―生活リズムは健全に守られているでしょうか。早朝、夕方、夜間の保育は子どもたちの気持ちの安定やあそびへの意欲に見合った工夫がなされているでしょうか。この分科会では、子どもたちの24時間の生活を見通し、生活づくりの基礎単位となる保育の「日課」「デイリープログラム」を見直す実践を討論してきました。『子どもの生活と長時間保育―生活のリズムと日課』（新読書社 2019 年刊・保育問題研究シリーズ）は 1972 年から 2019 年までの提案と討論の成果です。あいつく保育施策の変化のもと、「保育時間」をめぐる新たな問題提起を求めています。

**運営委員** 河野友香(愛知)・清水民子(京都)・清水玲子(東京)・横井洋子(北海道)

## 8 保育政策と保育運動

2019年の終わりに流行し始めたコロナパンデミックの中、保育現場では、取組の「中止」の結論のみでなく、感染拡大に細心の注意をはらい、経験と知恵を出し合い、子どもたちのよりよい保育の実現に向けて、たゆまぬ努力を積み重ねてきました。政府も「エッセンシャル・ワーカー」として、保育労働に関わる保育者の存在を認めざるを得ない状況になってきています。それのみでなく、ただでさえ脆弱な保育制度（職員配置基準や面積基準、職員の処遇等）の課題を浮き彫りにしました。処遇改善の課題一つとっても、政府の提案する「保育職員一人当たり月額 9,000 円支給」は、課題解決にはほど遠く、保育関係者の要求に沿ったものではありません。根本的には、不公正な公定価格の内容を充分検討し、抜本的な改革につなげていかなければなりません。

子どもの貧困や待機児童問題、子育て保障の地域間格差の広がりなど問題が深刻化するばかりです。この根元にある、市場原理に委ねた保育・子育て制度から子どもや親・保育者の「暮らし」を支える「権利としての保育」を保障する制度への抜本的な転換をどのように行うか、これが本分科会の課題です。提案から参加者のみなさんと課題を共有し、各地の保育や子育て施策の現状や保育要求に応える取組に学び、保育の質を高める施策課題と保育運動のあり方を考えます。

**運営委員** 大宮勇雄(東京)・景山一正(岡山)・武尾正信(京都)・中村強士(愛知)・藤木克己(大阪)・森山幸朗(島根)・吉業研司(沖縄)

## 9 障害児保育

昨年開催されたパラリンピックは、障害に対する理解を深める貴重な機会となりました。競技者の多様性を認め、個性や能力を発揮し活躍できる公平な機会が与えられるというパラリンピックの理念

は、どの子どもも発達し保育に参加することを保障するインクルーシブ保育に通じるものがあります。しかし東京都がその広告ポスターで「障がいはい言いつに過ぎない。負けたら、自分が弱いだけ。」という文句を載せて撤去騒動が起きたように、優れた能力を至上とする風潮はいまだに根強くあります。各地の優れた実践について語り合う事で、そうした風潮に負けないう、互いに尊重し合う対等な障害児保育の実践に向けて、一緒に考えていきましょう。

**運営委員** 河合隆平(東京)・杉井知子(仙台)・田中洋(大分)・田中良三(愛知)・野本千明(滋賀)・五十嵐元子(東京)・三山岳(京都)・山中万美(愛媛)

## 10 父母と共につくる保育内容

コロナ禍における保育が余儀なくされてから、早くも2年が経とうとしています。「3密」を避けて…という感染予防策は、これまで私たちが大切にしてきた「父母と共に子育てする」ことに大きな溝をつくるものでした。保護者の生活状況も大きく変化する中で、共に子どもの成長を見守っていくことが困難になっている現状があります。そんな中でも父母との信頼関係を築き、繋がり合い、保育を伝えていく工夫や葛藤など全国の保育園での取り組みが、様々な実践となり報告されています。コロナ禍で見えてきた発見や気づきが、今までの「当たり前」から「これから何を大切にしていくのか」という新たな取り組みの方向を示してくれました。保護者と手を取り合って、一緒に保育をつくっていくことの大切さを学び合えたらと思います。

**運営委員** 小堀恵恵子(愛知)・木村裕子(大阪)・細見玲美(京都)

## 11 乳幼児期の平和教育

平和的人間の形成は現代の教育の原点であり、人類的課題といえるものです。乳幼児期から子どもの心の中に平和のとりでを築く平和教育の営みは、平和な将来の社会を保障する重要な条件であり、最も確実な道といえます。平和とは、単に戦争が無い状態だけでなく、貧困、飢餓、虐待、失業、人種・民族・性などの差別の無い、人権が守られている状態を指すものです。保育現場で、生きづらさを抱えた子どもたち・親たちに向き合い日々取り組んでいる、そのことが平和教育につながるものです。愛されているという安心感や自己肯定感を育むことも、仲間と話し合う力を培うことも平和の心を育てる実践といえます。平和教育は決して「敷居が高い」ものではありません。日常の保育を改めて平和教育の視点で捉え直してみることから始めていきましょう。

**運営委員** 石井奈美(広島)・石原剛志(静岡)・ウィンフィールドひろみ(沖縄)・船越美穂(福岡)・前田晶子(鹿児島)

## 12 地域に開かれた保育活動

子どもの貧困や格差の広がりや、子どもの成長・発達にも大きな影響を及ぼしています。すべての子どもがひとしくその権利を保障されるために、保育園や幼稚園が果たす役割はこれまでに大きくなっています。また同時に、保育園・幼稚園だけでなく、自治体行政をはじめ子どもに関わるあらゆる機関・団体などが協働し、子どもが育つ環境である地域の人間関係や経済基盤などの社会的諸関係および自然環境を守り育むことも重要な課題になっています。この分科会では、保育園や幼稚園の地域活動とともに、地域子育て支援センターをはじめとする自治体の子育て支援活動の実践を報告し、交流するなかで、地域に開かれた保育活動の発展をめざします。

**運営委員** 愛甲明実(鹿児島)・松浦崇(静岡)・望月彰(兵庫)

# 13 特別分科会 異年齢保育

近年、異年齢保育に取り組む園が増え、その形態も小規模の保育園だけでなく年齢別にクラス編成ができるような園でも行われたり、幼児だけでなく乳児を含む異年齢保育も行われています。2016年から異年齢保育の分科会が設置され、異年齢保育を実践している園、関心を寄せている園も含めてたくさんの参加者で論議と交流を行っています。異年齢保育を通して子どもの育ちを語り、そこから見えてきた疑問や課題を交流し、展望を語り合い、共に未来を切り開いていきましょう。

**運営委員** 川田学(北海道)・佐藤滿(滋賀)・谷川芳秋(京都)・森内靖子(静岡)

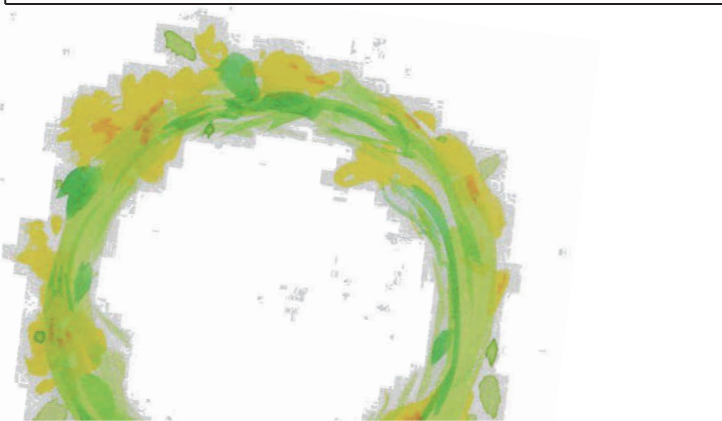
# 特別講座

～ 録画配信 ～  
6月11日(土)  
～7月10日(日)



|  |
|--|
| <b>A 保育の“学校化”を問い直す<br/>～「10の姿」・「架け橋プログラム」をめぐる動向から～</b>   |
| 現在、「10の姿」に加え、新たに幼保小の「架け橋プログラム」の検討が進められるなど、保育の“学校化”とも呼べる動きが強まっています。そうした動向を批判的に検討し、私たちが大切にすべき「保育」とは何か、検討します。<br><b>全国保問研 保育政策検討委員会</b>   |
| <b>B 自然災害への対応力を身につけよう</b>  |
| 日本は地震、台風、豪雨など自然災害の危険性が高い地域です。最近発生した地震災害、台風や豪雨による河川氾濫や土砂災害の事例を通して、自然災害の実態と仕組みを解説していただきます。自分たちが活動している地域の地理認識を高めることは、災害への対応力を身につけることへつながると考えられます。<br><b>森口 周二(東北大学災害科学国際研究所准教授)</b><br><b>全国保問研 震災学習委員会</b> |
| <b>C 発達のなかのきらめき</b>  |
| 発達の矛盾に立ち向かう子どもの姿によって、私たちは多くのことを教えられています。皆さんとともに、発達の道すじのなかにある「発達の共感」の一つひとつをたどりながら、子どもの同伴者としてのあり方を考えてみたいと思います。<br><b>白石 正久(龍谷大学名誉教授)</b>   |
| <b>D 保育現場から見えるヤングケアラー</b>  |
| 貧困やネグレクトなどの家庭で育つ小中高生の中には、家庭で過ごす時間の多くを乳幼児である妹や弟の世話に追われている子どもたちがいます。このようなヤングケアラーの声からこの問題を考えていきます。<br><b>幸重 忠孝(NPO法人子どもソーシャルワークセンター理事長)</b>   |
| <b>E ジェンダー・セクシュアリティを巡る人権問題</b>   |
| 時々聞こえる、あんな声、こんな声…。「男だから泣くな」「女の子らしくしなさい」・・・それほんまかいな…。講座のテーマは、そんな声を疑うこと。セクシュアルマイノリティは、早ければ幼児期から自覚することもあります。「性」って何だろう？ 人を生きづらくしているものって何だろう？<br><b>仲間 しゅん(うるわ総合法律事務所)</b>                                    |

|  |
|--|
| <b>F リトルジャーニーな〈2歳児〉<br/>～その発達論と社会論～</b>  |
| この講座では、1歳半頃～3歳頃の子どもたちを〈2歳児〉と表現します。第一反抗期やイヤイヤ期という表現がつかまとうこの年齢ですが、この子どもたちが求めている自分の姿や経験というのはどのようなものなのでしょう？ 子育て環境に関する歴史的な視点をふまえて、現代を生きる〈2歳児〉の理解を深めたいと思います。<br><b>川田 学(北海道大学・札幌保問研)</b> |
| <b>G 「子どもの権利」を日常の言葉に<br/>～保育の営みを考える～</b>   |
| コロナ下の国連声明をもとに生まれた『きかせてあなたのきもち 子どもの権利ってしってる？』(ひだまり舎)という絵本があります。絵本を手がかりに、保育の営みを子どもの権利の視点でとらえ考えます。<br><b>長瀬 正子(佛教大学)</b>  |
| <b>H ふれあい・歌あそび&amp;集団(ゲーム)あそび</b>  |
| あそびは「ワクワクドキドキ」しながら楽しむ、「もう一回しよう!」「もっとやりた〜い!」とどんどん子どもの気持ちがふくらんでいく。キラキラと輝く子どもたちの目が大人を幸せにしてくれます。乳児も幼児もそして大人も楽しめる・・・それがあそびなんだな。<br><b>安藤 正彦(保育士・大学非常勤講師)</b>                            |
| <b>I 子どもの生活と長時間保育</b>  |
| 子どもの生活時間を健全なリズムにととのえることは保育の重要な課題のひとつです。家族の働き方(長時間労働・残業・遠距離通勤)により保育は長時間化してきました。「保育時間と保育内容」分科会での討論から問題点のいくつかと、とくに「夕食」問題を中心に考えてみたいと思います。<br><b>清水 民子(京都保問研)</b>                       |



## 参加要項

- 開催方法 \*開会集会・記念講演、特別講座・・・録画配信(視聴期間 約1か月)  
\*分科会・・・オンライン(Zoom)  
\*閉会集会・・・中継配信(後日、録画配信もあり)  
※日時・視聴期間については表紙をごらんください。

- 申し込み **お申し込み開始は 4月 1日(金) より** インターネットにて一つのパソコン等で複数名参加される場合も、おひとりずつ参加申し込みをしてください。  
**※団体申し込み(割引)プランはありません。**

## 参加費と申し込み締め切り

|      |                     |          |        |
|------|---------------------|----------|--------|
| 【一般】 | ① 一次締切              | 5月10日(火) | 6,000円 |
|      | ② 二次締切(分科会参加申し込み最終) | 5月25日(水) | 6,500円 |
|      | ③ 最終締切(録画配信視聴のみ)    | 6月30日(木) | 6,500円 |

【学生】 一律 3,000円(締切は「一般」と同じ)

※②(二次締切)以降のお申し込みは、録画配信の視聴のみになります。

## 分科会・分散会への参加について

\*参加人数の多い分科会(乳児保育、集団づくり、あそび)は、分散会に分かれて行います。  
**参加したい分散会を選んで申し込んでください。**  
分散会の分け方につきましては、**4月1日(金)以降、全国保問研のHPに記載**しています。  
**申し込みフォーム(申し込む時の画面)に希望分散会を記入**してください。

\*参加人数が多くなりすぎると議論がしにくくなるため、上限人数を設定している分科会・分散会もあります。**参加上限人数は、4月1日(金)以降、全国保問研のHPと申し込みフォームに記載**されています。

\*参加ご希望の分科会・分散会の人数が上限に達した場合、**他の分科会・分散会を選んで申し込んでいただくこと**になります(先着順)。

\*参加する分科会・分散会は、**5月25日(二次締切)まで変更可能**です。

## ◆ お申し込み方法

1)「全国保育問題研究協議会(全国保問研)」を検索、または右のQRコードを読み取ってください。

<http://zenhomon.jp>



2) お申し込みは「京都集会申し込みページ」の「名鉄観光」をクリックしてください。申し込みサイトの指示にしたがい、登録に関する基本的な情報（氏名や所属、住所、メールアドレス等）と、希望の分科会／分散会等をご記入ください。登録後に、内容確認メールが届きます。お客様控えとして大切に保管してください。これで申し込みは完了です。

その後、分科会／分散会への参加等に必要な情報（緊急の連絡を含む）を、登録していただいたメールアドレス宛てに連絡します。

\* 基本的には、個人で申し込んでください。「メールアドレスが無い」等の方は、代表者の方を通して申し込みをすることも可能です。代表者の方は、メールで届く各種のお知らせを、申し込みをした人にお知らせください。

### お申し込み者情報入力画面

お申し込み連絡担当者情報入力

お申し込み連絡担当者の入力画面です。  
申込完了メールの送信・各種券類の送付・ご請求・ご連絡等は、お申し込み連絡担当者に行います。  
(※お申し込み連絡担当者は参加者に限りません。)

▼申込者情報 全てを展開する！ 全てを閉じる！ 閉じる！

代表者氏名 **必須** 姓  名

フリガナ **必須** セイ  メイ

所属保問研 **必須**

職場名・学校名

送付先区分 **必須**

集会要綱送付先 **必須** 〒  -

電話番号 **必須**  -  -

FAX番号  -  -

メールアドレス **必須**   
確認用のため2回入力してください。

パスワード **必須**  パスワードは6~20文字の英数字の組み合わせで設定してください。  
使用できる文字は半角英数字となります。  
確認用のため2回入力してください。

こちらで入力したメールアドレス、パスワードは動画視聴の際に必要となります。必ずお控えください。

【次へ】から進むと参加者の登録画面となります。

二人目、三人目を登録される場合、【参加者を追加】をお選びください。

※ スマートフォンからお申し込みの場合、@mwt.co.jpからのメールを受け取れるように設定をお願いします。

3) メール到着後、メールに記載の口座に参加費の入金をお願いいたします。

※ 入金をされなかった場合でも自動取消とはなりませんのでご注意ください。

(取消の際は必ず、名鉄観光申し込みサイトの「マイページ」より取消の手続きを行ってください)

※ セキュリティの関係で上記返信メールが届かない場合がございます。その場合、申し込みができていないか名鉄観光サービス株式会社京都支店（TEL 075-255-2211）に電話で確認をお願いいたします。

### ■ 取消について (トラブル防止の為、お電話による変更・取消は受付いたしておりません。)

お申し込みの取消は、メールアドレスとパスワードを入力してログインいただく「マイページ」内にて手続きをしてください。

| 参加取消日      | 参加取消料    | ご返金額          |
|------------|----------|---------------|
| 5月27日(金)まで | 500円     | 取消料・振込料を除いた残金 |
| 6月2日(木)まで  | 参加費の20%  |               |
| 6月3日(金)以降  | 参加費の100% | 返金いたしません      |

### ■ 分科会への参加および録画視聴の方法

5月末から順次配送を始める「集会要綱」に掲載します。

※ 「集会要綱」送付先の変更は、5月25日(水)までをお願いいたします。

### ■ Zoom 視聴について

Zoomの基本操作についてはZoomの公式サイトをご覧ください。

【Zoom公式サイト】 <https://zoom.us/jp-jp/meetings.html>

### 《お申込・お問合せ先》

〒600-8492 京都府京都市下京区四条通新町東入月鉾町62 住友生命京都ビル6階

名鉄観光サービス株式会社 京都支店

「第61回全国保育問題研究集会」担当 中山・齋藤

電話：075-255-2211 / FAX：075-255-8511

E-mail：zenhomon2022@mwt.co.jp

【営業時間：平日 9:30~17:30 (土日・祝日は定休日となります)】